

令和5年度

市政運営方針

和泉市長 辻 宏 康

令和5年度 市政運営方針

《 はじめに 》

本日、令和5年和泉市議会第1回定例会開催にあたり、市政運営の基本方針と主要施策の大綱につきまして、私の所信の一端を申し述べ、議員並びに市民皆様のご理解とご協力をお願いする次第でございます。

今年の干支は、「癸卯（みずのとう）」です。「癸」は、十干の最後に当たり、生命の終わりと次の新たな生命が成長し始めている状態を意味し、「卯」は、茂の字を由来とし、草木が地面を覆う様になった状態を表します。その「癸」と「卯」の組合せから、今年は、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長する年とされており、跳ね上がるウサギのように、物事を開始するのに縁起が良く、希望にあふれ、景気が回復し、好転する年になるとも言われています。

私は、今年、市長就任15年目を迎えます。12年前の卯年、平成23年は、市長就任3年目を迎えた年で、私の公約としてご提案した個人市民税の減税に係る条例案は否決という結果ではありましたが、この年に、「和泉再生プラン」をスタートさせ、和泉市土地開

発公社の解散を決定したほか、旧横山高等学校跡地と弥生文化博物館隣接用地の交換について目処を立て、また、和泉市立病院のあり方を外部評価委員会に諮るなど、抜本的な改善に取り組んだ年でもございました。こうした取り組みの結果、翌年には個人市民税の減税に係る条例案をご可決いただき、和泉市土地開発公社における累積する債務を解消できたほか、旧横山高等学校跡地は関西トランスウェイスポーツスタジアムに生まれ変わり、和泉市立病院は新病院の建設と併せ、指定管理者制度を導入し、多くの医師を擁する和泉市立総合医療センターの開設につなげることができた次第であります。

振り返りますと、この平成23年は、これまで先延ばしになってきた本市の様々な課題について、議員皆様とともに、解決に導くことができた年であり、本市にとって飛躍のスタートを切る節目の年であったと実感しています。

そして、早いもので、あれから干支も一回りし、本年1月には新庁舎がグランドオープンするなど、和泉市はさらなる発展への第一歩を踏み出しました。

この一年も、未来への飛躍のきっかけとなる年とするため、令和5年度は「頑張る職員が報われる人事給与制度改革」の実現に向け

て重点的に取り組みます。

この改革の取り組みは、年功序列で処遇が決まる制度から、その意欲・能力・成果が優先される制度へ改革し、一生懸命頑張っている職員が報われる組織となることを目的にしています。その結果、政策を実現する力をもった人材が揃い、あらゆる分野で先進的な取り組みが進み、和泉発日本と評価される事業をいくつも実現できる組織にしてまいります。

この「人事給与制度改革」は、未来に飛躍する和泉市の礎であり、人への投資によって、和泉市のまちづくりを進め、市制施行100周年を迎える際には、この令和5年、卯年の取り組みが飛躍の年のきっかけであったと語られるよう、志と使命感を持って取り組みを進める決意です。

《 次世代を見据えた重点施策 》

令和5年度は、これまで検討を重ねてきたことを実現するための大きな一歩を踏み出す年にしていきたいと考えております。

まず、「人事給与制度改革」と並ぶもう一つの大きな改革の「教育改革」については、令和4年度に実施した懇話会での有識者意見を

参考に、令和6年度全国学力・学習状況調査で大阪府平均点以上の成果を目標として、市内小中学生の学力向上に取り組んでまいります。具体的には、引き続きリーディングスキルテストの結果を活用し、読解力向上を図るための授業改善を実施するとともに、授業時間や家庭学習ではA Iドリルを活用するなど、各種学力向上に係る取り組みを推進します。加えて、いずみ希望塾の定員拡充やA Iドリルの活用、中学校における35人学級の編制に向けて講師の募集や選考を行い、和泉市の将来を担う子どもたちの成長の一助とし、子育て世代から信頼される教育環境を構築してまいります。

次に、令和2年以降、猛威をふるい、日常生活に多大な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症については、国の方針に基づき対応するものですが、コロナ禍で一層注目されることとなったDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することにより、新たなライフスタイルを確立していくことが重要です。このため、できるかぎり市民に来庁していただくなくてもサービスが提供できるよう、各種手続きの電子化を進めるとともに、学校現場で扱う校務支援システムを更新し、保護者からの欠席連絡、学校からのお便りについて、スマートフォンなどを利用した連絡体制を構築します。

また、令和4年12月に改訂した「和泉創発プラン」、「和泉市公共施設等総合管理計画」に基づき、医療的ケア機能を備えた民間保育施設の誘致に係る事業者の選定や、富秋中学校区等のまちづくり事業について、引き続き、効率的かつ効果的に事業を推進するための事業者の選定に取り組むほか、保健センターや教育センターなどの移転集約を計画する庁舎第1分館（旧市立病院南館）について、令和7年4月の供用開始に向けた改修に取り組めます。

その他、市内で生産された様々な魅力ある地場産品をふるさと納税の返礼品として提供することにより、地域産業の活性化を図るとともに、自主財源の確保に努めてまいります。特に、令和5年度は、新たな返礼品の発掘や提供事業者の新規開拓に加えて、「和泉市の魅力」と「和泉市ふるさと元気寄附事業」をこれまでも増して積極的にPRすることにより、本市のさらなる知名度向上、寄附金の増加及び市内産業の活性化に取り組んでまいります。

《 命と暮らしを守り未来を拓く 3つのテーマ 》

それでは、次に4期目のスタート時に申し上げた3つのテーマ

1. 市民の命と暮らしを守るまちづくり

2. 子どもたちの未来が輝く子育て・教育のまちづくり

3. にぎわいがあふれ活力のあるまちづくり

に沿って、今年度取り組むまちづくりについてご説明を申し上げます。

【1. 市民の命と暮らしを守るまちづくり】

市民の命と暮らしを守ることは、私の最大の責務です。新型コロナウイルス感染症に限らず、未曾有の災害は、いつどこで発生するか、完全には予測できません。気を緩めることなく、常日頃から対策を講じていくことが重要で、有事の備えとして、引き続き、様々な施策を講じてまいります。

まず、地域の特性や災害リスクを踏まえ、大規模な地震や風水害に備える「地域避難計画」を地域住民との協働により策定するとともに、避難所となる学校体育館への空調設備について、中学校及び義務教育学校に続いて小学校の体育館にも設置するため、設計に取り組みます。

次に、消防体制の充実強化を図るため、消防本部・消防署庁舎の移転建設を着実に進めるとともに、堺市との通信指令業務の共同運用及び消防救急デジタル無線設備を整備します。

また、夏場における猛暑対策の一つとして、和泉府中駅及び和泉中央駅の駅前広場において植栽や微細ミスト発生器を設置するほか、鉄道利用者の安全確保のため、鉄道事業者と連携し、和泉中央駅の落下防止用ホームドアの設置に取り組めます。

【2. 子どもたちの未来が輝く子育て・教育のまちづくり】

和泉市が持続的に発展可能なまちとなるためには、次世代を担う子どもたちが夢や希望をもって、生き生きと育ち学べる環境づくりと、その子どもたちを安心して育てられる環境づくりが大切です。

まず、子育て・保育環境の充実については、子どもの成長に合わせて子育てを切れ目なく、様々な面から支援するため、ヤングケアラー等気がかりのある家庭に育つ子どもなどの相談を受け、関係機関等との連携を図る支援コーディネーターの配置や子ども食堂への食材配送支援など子どもを守り、育てる環境づくりを推進するほか、国の制度を活用して、伴走型相談支援及び出産・子育て応援ギフトの給付を行います。

また、北西部地域において公立の幼保連携型認定こども園の令和9年度の開園をめざし、基本計画を策定します。

教育環境の充実については、高等学校等入学の際に支援する給付

型奨学金の給付額を3万円から4万円に拡充し、小中学校における医療的ケアの充実を図るべく各校の学校看護師をコーディネートする担当者を配置するほか、中学校及び義務教育学校後期課程における部活動指導員を配置します。

その他、令和7年4月の開校をめざす（仮称）榎尾学園では、新体育館を完成させた後、新校舎棟建設工事に着手するほか、令和9年4月の開校をめざす（仮称）富秋学園では、設計・工事を一体的に行う事業者を選定のうえ、設計に着手します。

【3. にぎわいがあふれ活力のあるまちづくり】

市制施行100周年の未来を見据えたまちづくりには、道路や公園といった都市基盤整備やにぎわいづくりに加え、子どもや高齢者、障がい者など、誰もが生活しやすいと感じられるまちづくりも大切です。このことから、就労を希望する障がい者への支援を行うため、障がい者就労支援センターを開設するほか、地域交流の場となる国府老人集会所について、老朽化に伴う移転整備に向けた設計を行います。

また、人口減少が著しい南部地域等に係る取り組みとして、住宅

取得費等の一部支援を行う移住定住支援制度を継続するほか、槇尾中学校区における公共交通の利便性向上を図るため、オレンジバスの代替手段として、A I オンデマンド交通の導入を進めます。

次に、都市基盤整備として、北信太駅周辺の整備を推進するため、引き続き、事業用地の取得やエレベーター設置を含めた自由通路の整備を行うとともに、鶴山台団地再生事業に伴うまちづくりについては、UR都市機構及び地域との協議を続けながら、跡地活用について整理してまいります。

その他のにぎわいづくりとしては、全国に誇る歴史・文化拠点である池上曾根史跡公園について、(仮称)池上プレイステージとして幅広い人に愛される新たな交流拠点とするため、令和8年リニューアルオープンをめざし、グラウンドゴルフやフットサル、スケートボードなども楽しめる公園整備工事に着手します。

《 令和5年度に取り組む主要な事業 》

次に、令和5年度に取り組むその他の主要な事業について、新たな事業や拡充した事業を中心に、「第5次和泉市総合計画」の体系に沿って、順次ご説明いたします。

1. 定住の促進

(「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり)

- 聴覚障がいの早期発見・早期療育を図るため、全ての新生児を対象とした聴覚検査を公費負担で行います。
- 来庁しなくても子育て相談ができるオンライン相談の環境を整備します。
- ひとり親家庭の支援策について、スマートフォン等から質問することにより必要な手続きや内容が確認できる仕組みを構築します。
- 認定こども園や認定こども園へ移行する幼稚園の施設改修を支援することにより、保育環境の改善と待機児童の解消に取り組みます。
- 保護者負担の軽減を図るため、使用後の紙おむつを公立・民間保育所等にて処分することとし、民間保育所等に対して、その処分に係る費用を補助します。
- 民間保育所等における保育人材を確保し、質の高い保育を提供するため、引き続き新規採用保育士等への就職支援補助を行います。

(社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実)

- 南松尾はつが野学園において校舎の増築工事を行い、子育て世代

の増加等に伴う教室数の不足に対応します。

○校舎の長寿命化やトイレの洋式化等による教育環境の充実を図るため、いぶき野小学校において大規模改修の設計に着手するほか、北池田中学校において改修工事を行います。

○教育環境の充実を図るため、特別教室や給食室への空調設備の整備に係る設計に取り組みます。

○学校給食の安定した運営を継続するため、急激な物価高騰の影響による学校給食費の増額分について、令和5年度に限り補助を行い、保護者の負担軽減を図ります。

○民間屋内プールを活用した学校水泳授業について、令和10年度の全校実施に向けて、令和5年度は11校にて本格実施をスタートします。

○通級指導を受ける児童生徒が多い学校に対し、きめ細かな指導を行うことを目的に、学習支援サポーターを配置します。

○姉妹都市提携30周年を迎える米国ブルーミントン市に公式訪問団を派遣し親善を深めるとともに、市内中学生を派遣することにより、英語教育の促進や国際感覚を持った人材の育成を図ります。

(一人ひとりが輝くための生きがいづくり支援)

- 青少年の家の活性化を目的に、令和7年度のリニューアルオープンをめざした設計に取り組みます。
- 市内の生涯学習情報を集約するアプリを構築することにより、学びのきっかけ、機会の充実を図ります。
- 大阪・関西万博の機運醸成、和泉シティプラザ開館20周年を記念した各種イベントの開催、NHK公開番組の招致を行います。
- 市民の郷土愛を醸成するため、府中地域の歴史をまとめた「和泉市の歴史 第5巻 府中編」を刊行します。
- 久保惣記念美術館において、俵屋宗達の作品を全国から集めた特別展（仮称）「宗達 ー源氏と伊勢ー」を開催します。
- 国の登録有形文化財である久保惣記念美術館茶室の耐震補強工事を引き続き行います。

(健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進)

- 自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざし、「第2次和泉市自殺対策行動計画」を策定します。
- 働く女性のがん検診受診率向上を図るため、乳がんの集団検診の

日曜開催を3回から7回に拡充します。

- スポーツ大会に代表として出場する市民及び団体へのスポーツ振興奨励費を増額するとともに、優勝者にはその奨励費をさらに加算し交付することにより、さらなるスポーツ振興を図ります。

(外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備)

- 信太山丘陵里山自然公園について、令和6年度の一部開園に向けて、公園整備を進めるとともに、指定管理者の選定を行います。
- あゆみ野三丁目南交差点改良工事など、大阪府と連携した交通渋滞の緩和や交通安全対策に取り組みます。
- A I を活用した新たな公共交通の導入など、持続可能な交通体系の構築に向けて、「和泉市地域公共交通計画」を策定します。

(環境に配慮した快適なライフスタイルの確立)

- 「和泉市地域脱炭素戦略」を策定し、市内事業者等と連携して、脱炭素先行地域づくりをめざします。
- 家庭における脱炭素化を促進するため再エネ100%電力メニューに切り替えた家庭を対象に2万円の奨励金を支給します。

○脱炭素化及び省エネ活動を促進するため、公用車の更新にあたっては、ゼロエミッション車を優先的に購入します。

2. にぎわいの促進

(活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出)

○食の祭典としてイベント型で実施してきた「いずみの国グルメグランプリ」に代わり、市内飲食店等への誘客やPRを目的とした店舗周遊型の事業を実施します。

○農用地の効率的かつ総合的な利用を図るため、地域と協議を重ねて地域農業の現況地図・目標地図の作成及び農業経営基盤の強化に係る地域計画の策定に着手します。

3. 安全・安心の促進

(住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり)

○和泉市立総合医療センターにおいて、質の高い医療を提供するため、肝臓・胆のう・膵臓外科及び乳腺内科を創設します。

○障がい福祉サービスや相談支援などのさらなる整備・充実を図り、計画的に施策を推進するため「第7期和泉市障がい福祉計画・第

3期和泉市障がい児福祉計画」を策定します。

○令和6年度から3か年の介護保険事業の運営や介護予防、高齢者福祉等の施策の方向性を示す「第9期和泉市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」を策定します。

○ひきこもりをはじめ、多様化した福祉ニーズに対応するための体制づくりに取り組みます。

○地域防犯体制の強化を図るため、公用車の青色防犯パトロール車両を段階的に全小学校区に配備するよう、現行の5台から9台へ増台します。

(災害に備える仕組みづくり)

○避難支援の充実に向け、避難行動要支援者一人ひとりの状況に応じた「個別支援計画」の作成を福祉専門職の協力を得ながら推進します。

○消防・救急体制の充実を図るため、老朽化した高規格救急車及び消防団ポンプ自動車の更新を行います。

○和田浄水場の浄水処理設備や水質検査機器を更新し、水道水の安全性確保に努めます。

4. 支えあい・協働の促進

(みんなで取り組む連携・協働のまちづくり)

- 高齢者に多様なサービスを提供するため、移動支援・生活支援を実施する地域住民団体への助成費や助成団体数を拡充します。
- 認知症と思われる人やその家族のニーズに応じ、早期から心理面・生活面を支援するため、地域の認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組みづくりを推進します。
- 国、府の動向や地域福祉を取り巻く状況の変化に対応し、計画的に施策を推進するため、「第5次和泉市地域福祉計画」を策定するとともに、「協議の場」や民生委員・児童委員活動への支援の充実を引き続き図るなど、地域福祉の強化に取り組みます。

(多様性を認め合う人権尊重のまちづくり)

- 障がい理解を促進するよう交流イベントを開催するなど、あいサポート運動のさらなる推進に取り組みます。
- インターネット上の人権侵害を防止するため、幅広い世代に対し、インターネットの便利さや脅威を理解し、適切に利用すること(ネットリテラシー)の啓発や相談窓口の周知などに取り組みます。

5. 都市経営の促進

(既存ストックの適正管理の促進)

○利用休止となっている人権文化センター市民文化ホールについて、市有財産の有効活用を図るため施設を廃止し、建物除却の設計を行います。

○街路灯及び公園灯について、E S C O事業を活用したL E D化を行うことで、環境負荷の低減、維持管理コストの縮減に努めます。

○適正な維持管理及びライフサイクルコストの縮減等を目的とする市営住宅長寿命化計画及び橋梁長寿命化修繕計画について、見直しを行います。

(市民の信頼に応え、都市経営を支える行財政運営)

○伯太第二改造住宅跡地を売却するほか、売却が困難な普通財産の計画的な利活用に取り組みます。

○歳入のさらなる確保に向け、新たな資金管理運用ガイドラインに基づき、安全性の高い債券の購入などの公金運用を行います。

○国が定めるシステムの標準化方針に基づき、市で取り扱う基幹系システムについて標準化・共通化を進めます。

○契約手続きの効率化、ペーパーレス化の推進や事業者の負担軽減を図るため、電子契約システムを導入します。

○監査事務における事前調査の一部について、専門的知見を有した民間事業者に委託することにより、監査の充実・強化及び職員スキルの向上に取り組みます。

《 結びに 》

以上が、令和5年度市政運営方針でございます。

ここで、和泉発日本と言える事業を実現するために作成した7つの心得を紹介します。

1. 先ず一流をめざす
2. 夢・ビジョンを共有し、方向性をひとつに
3. 失敗を恐れない
4. 仕事を好きになる
5. 先送りせず、今できることを今行う
6. ポジティブな言葉を口癖に
7. 報連相から確連報へ

これらの7つの心得については、この心得が意味する内容を添えて、職員に周知・徹底するため、職員がパソコンを利用する際に、ポップアップで表示しています。

私と職員がしっかりと思いを共有し、共に歩みを進めることで、いくつもの和泉発日本と評価される事業が実現することを信じてやみません。

日本を代表する経営者で、京セラ株式会社の創始者、故稲盛和夫氏は、一代で同社やKDDI株式会社を世界的な大企業にまで成長させました。また平成22年に日本航空（JAL）が経営破綻した際には、齢78歳にして自ら再建に着手し、立て直しは不可能と言われる中、僅か2年8か月で株式を再上場に導くなど、半世紀の間、強力なリーダーシップで日本経済界をけん引し、日本の経済発展に大きく貢献されました。

稲盛氏は、アメーバ経営など独自の経営手法で組織をけん引する一方、京セラフィロソフィという経営哲学を非常に大切にし、「私利私欲を捨て、謙虚であれ」、「仲間のために仕事をする」、「言葉は信頼関係を築くための手段」など、人としての生き方や思いの大切さを説いています。

まさに、7つの心得に通ずるところがあると考えます。

また、JALの再建に取り組んでいた当時、稲盛氏は、ある講演会で、「私は今も、ど真剣に毎日を生きている」と仰り、多くの方々に感動と勇気を与えたそうです。私はこの「ど真剣」という言葉をこれまで使うことはありませんでした。それは「ど真剣」というあまりにも強烈な響きを持った言葉と、自分の気持ちが重なり合う場面に出会うことがなかったためですが、今、敢えてこの言葉を使わせていただきます。

『令和5年度においては、「和泉発日本」を合言葉に、どのような困難や障害が目の前に現れようとも、職員とともに、和泉市の未来を切り拓くため「ど真剣」に取り組んでまいります。』

なにとぞ議員並びに市民皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。